

二〇一八年七月二〇日

煙浴び土用うなぎの列に待つ  
山影に立ちのぼりたる大銀河  
酷暑中句材求めて吟行す  
ミシン踏む速度を急かす蝉時雨  
宅配の人へ感謝の氷水

なつき  
せいじ  
明日香  
さつき  
智恵子

二〇一八年七月一九日

息災と言ふ幸せや冷奴  
落蟬になほ容赦なき日射しかな  
旅疲れなる喉越しに冷奴  
車座にもぐもぐタイム草刈女

たか子  
うつき  
菜々  
さつき

二〇一八年七月一八日

友の訃の届く夜更けの遠蛙  
ハンカチが落ちましたよと背より声  
石仏の瓔珞なせる蔦紅葉

やよい  
明日香  
ぼんこ

二〇一八年七月一七日

せせらぎの樂が耳福や青葉闇  
水屋の旗が吾を呼ぶ男坂  
農夫から麦笛習ふ下校の児  
遠雷と思うや否やゲリラ雨  
溽暑なりギブスの足の重きこと

せいじ  
なつき  
愛正  
智恵子  
やよい

二〇一八年七月一六日

夏座布団パリッと糊の利くカバー  
香水の残り香強きグリーン席

よう子  
宏虎

二〇一八年七月一五日

走り根に浴ひて数多や蟬の穴

三刀

二〇一八年七月一四日

供華手向く暑いですねと語りかけ  
登り来てパノラマ涼し方位盤  
干瓢の簾のごとく干されをり

菜々  
花茗荷  
明日香

毎日句会みのる選・二〇一八年七月二三日